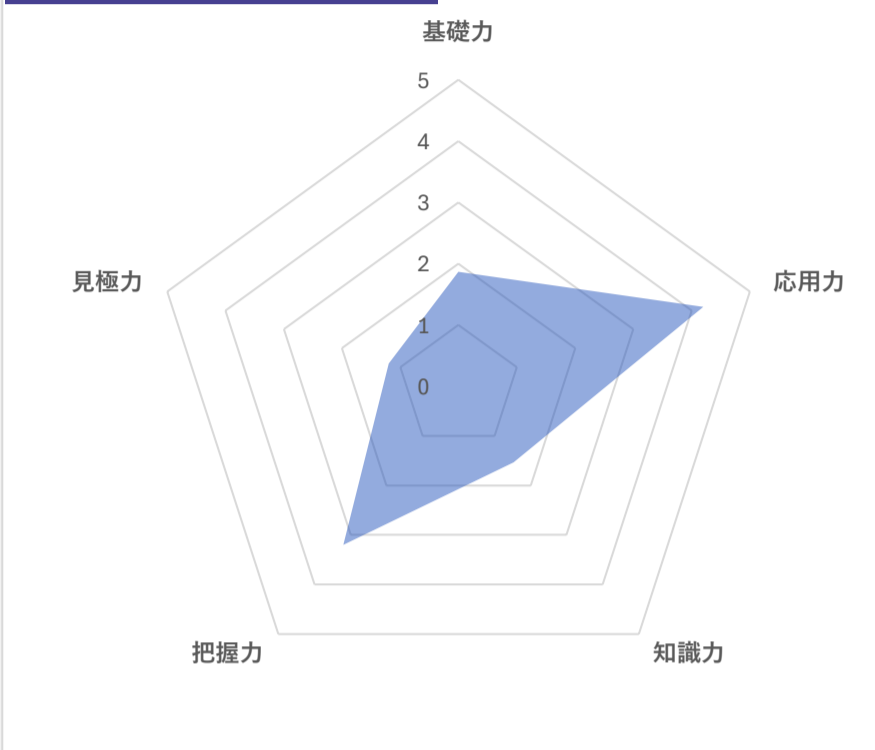


総合分析

試験区分	一般（前期）
------	--------

制限時間	60分（理科2科120分）	大問数	全3問
------	---------------	-----	-----

合格に要する能力（5段階）

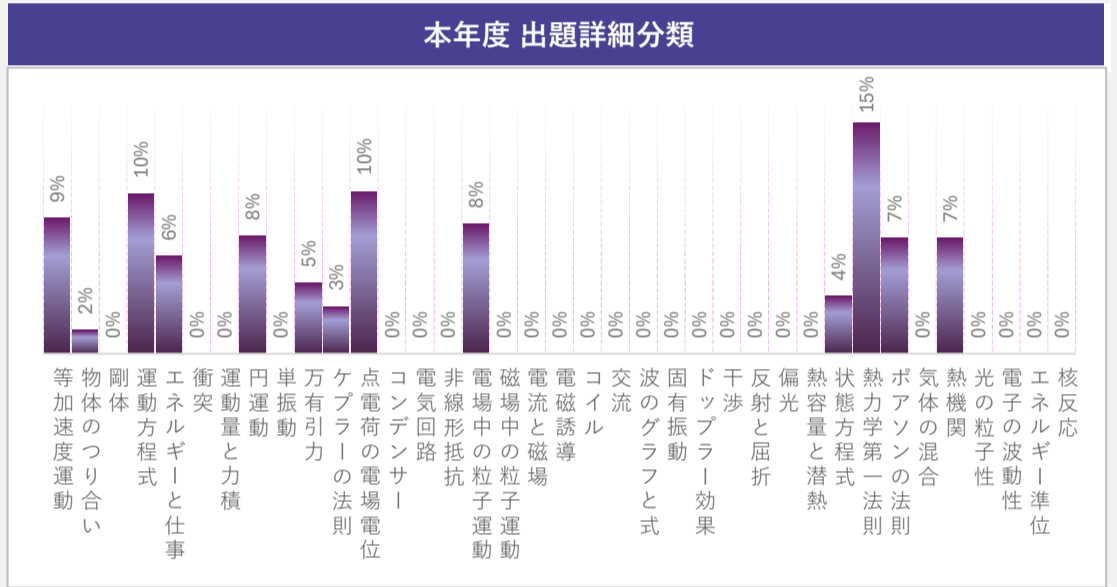


合格に要する能力（5段階）		
基礎力	1.7	原理についての理解
応用力	4.0	演習経験による慣れ
知識力	1.3	用語を正確に覚えているか
把握力	3.0	臨機応変に状況を把握する力
見極力	1.0	解きやすい問題を選択する力

出題分野	
力学	42%
電磁気学	19%
波動	0%
熱力学	33%
原子物理	0%

本年度出題テーマ一覧	
第1問	非等速円運動と万有引力
第2問	電場中の荷電粒子運動
第3問	熱サイクル

本年度 解答形式
穴埋め記述 100%



特殊問題の有無	近似計算あり	グラフなし
正誤問題なし	理由記述なし	数値計算あり

特記事項 第2問に出題ミスがあった

総合評価

難度	2.3	最難を5とする問題自体の難度	やや易しい	一次合格に必要な正答率（予想）	82%
分量	40分	完答に要する時間（制限時間は60分）	やや少ない	極めて高い正答率を要する	

**入試の特徴と対策**

- ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。
- ▶ 同時に複数の事柄への理解を要する出題が多い。独力で解法を組み立てる力を要する。

**入試から見る大学が求める学生像**

ほとんどが典型的な問題で構成されているため、しっかりと問題演習を積んでいればかなりの高得点がとれる。題意の汲みにくい問題がわずかにみられるが、受験者層に鑑みれば高得点争いとなるだろう。試験時間は十分にとられており、解ききれないことは考えにくい。細かいミスが減らす工夫を要する。総じて、事前準備を怠らず、現場でも落ち着いて正確に結論を出すことができる医学生を求めているのだろう。